



# CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 生駒 祐健  
幹事 渡邊 國和  
SAA 峯口 馨  
会報小委員長 嵐 繁雄

◎例会日 毎週水曜日 (12:30 ~ 13:30) ◎事務所 いわき市城田町中央一丁目 6 番地の 9  
◎例会場 ホテルミドリ 〒974-8261 ホテルミドリ内 TEL0246-62-3737

第 2535 回 例会 平成 26 年 1 月 8 日 (水・晴)

2013~2014 年国際ロータリーのテーマ

## 新年初例会

### 会員卓話

生駒 祐健 会員

#### ◎会長報告 - 生駒祐健会長



皆さん、新年明けましておめでとうございます。平成 26 年丙午新年を謹んでお慶び申し上げます。会員各位には恙無く新年を迎え大変喜ばしいことと思います。さて、今日 1 月 8 日は初葉師様の日であります。また御七日御修法開白の日でもあります。その他には平成年号が始った日で 1989 年の今日から平成に変わりました。今年もいろいろありますが当クラブの例会も残り 23 回ということになります。後程ガバナー事務所より連絡事項がありますが今年も皆さん宜しくお願ひ致します。私からは以上です。

#### ◎幹事報告 - 渡邊國和幹事



皆さん、明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願ひ致します。  
・第 2530 地区より後期地区委員会総会の案内が届いております。これについては後期地区幹事の鈴木修一郎会員よりご案内があると思います。  
・本日は今年初の例会ですので例会終了後に理事会を開催致します。理事の皆さんはお残り下さい。宜しくお願ひします。

#### ◎各委員会報告

##### ◇出席委員会 - 佐藤政司小委員長



本日の出席状況は下記の通りです。

出席状況	正会員数 本日の出席率	50 名 81.81%	本日出席会員数 修正出席率	36 名 86.95%
------	----------------	----------------	------------------	----------------

君が代

ロータリーの目的

生駒 祐健 会長

- 今月はロータリー理解月間です -

#### ◇スマイルボックス委員会 - 山下小委員長



・新年明けましておめでとうございます。本年初例会です。健康に気を付けて頑張っていきましょう。山下、遠藤、富岡、荒川 (清)、秋山、押田、赤津 (善)、岩元、矢代、荒川 (義)、高萩、小熊、中間、佐藤 (英)、煙山、小松崎、橋本、佐藤友計、赤津和三、嵐、松崎、峯口、金成、鈴木 (修)、中村、清水、林各会員及び渡邊公平ガバナー、生駒会長、川口会長エレクト、渡邊國和幹事、鈴木副幹事

・誕生祝ありがとうございました。

赤津 (善)、松崎各会員

・本日早退ごめん下さい。

佐藤政司会員、鈴木雅之副会長

・前回休んでごめん下さい。

高田会員

#### ◇親睦活動委員会 - 富岡副小委員長

本日は今日誕生日の方へ誕生祝を差し上げたいと思います。赤津善宣会員と松崎会員の方へどうぞ。おめでとうございます。



#### ◎ガバナー事務所

第 2530 地区 幹事



鈴木 修一郎

皆さん、明けましておめでとうございます。旧年中はいろいろとガバナー事務所に対しご支援ご協力を戴き本当にありがとうございました。半年が過ぎ残りの後期もさまざまな会議、大会等がございますので今年も何卒宜しくお願い申し上げます。早速ですが今月 19 日に後期委員会総会が予定されております。前半の事業報告とそして後期の事業計画について話し合う機会になります。副幹事の皆様には各委員会のサポートについて戴きお手伝いをお願いすることになっております。

#### ◎会員卓話 - 生駒祐健会長

##### 和尚のつぶやき

『命は永遠ではない』

からごぞうい

人に生まれることはむずかしい  
死すべき人々に生命がつづくのも  
むずかしい

正法 (しょうぼう) を耳にするのもむずかしい

み仏の世にいますのもむずかしい

法句經 (ダンマパダ) 182

今の若い人はよく「自分は生まれたくて生まれたのではない。親が勝手に産んだ」などと平然といっています。こういう言葉を「罰当たり」と私たちふるい世代の者はいうのです。

親が感情にまかせセックスしたから、あるいは恋人どうしが自分の性欲を抑制できなくて体を合わせてしまったから、生まれたのかもしれない。けれども億単位の精子の一つが、たった一つの卵子と出逢い合体するという神秘は、科学では説明できません。

世の中には、説明不可能な不思議なことがいっぱいあります。それを仏教では摩訶不思議と呼びます。摩訶とは偉大ということです。

人間が生まれるという神秘は、科学や学理で説明できないものです。私たちは何か宇宙に存在する大いなる生命の根元の摂理によって、この世に送り出されてきたとしか考えられません。

人間以外の芽に見えない偉大な宇宙の生命があるか、ないか。あると信じるころに宗教が生まれるのです。

人間はこの世に送り出された瞬間から、やがて老

い、必ず死すべき運命を与えられています。

死すべき宿命の人間が永遠に生き続けるのは困難です。人の命の長さは生まれて時、すでに定められているのです。これを定命 (じょうみょう) といいまます。うまれてすぐ死ぬ赤ちゃんも定命です。百歳を越して、なお豊饒 (かくしゃく) としているのも、その人の定命なのです。年をとって寝たきりの病人になっても死ねないのも定命なのです。自分の定命さえわからないのが人間です。

この句は、それを言い表しています。

正法 (しょうぼう) とは仏教の正しい教えです。お釈迦さまの定めた教えです。それを耳に聞くことが出来るのも偶然で、その好機に誰もが出くわすとは限らないのです。

仏が、つまりお釈迦さまがこの世にあらわれるのも、大変にむずかしいことなのです。

この世に送り出されてきた自分の命の尊さをよく認識して、その稀な幸運を感謝し、生まれたがために、世にも珍しいお釈迦さまの教えに出逢える幸運をさらに感謝しようではないかということこの句はうたっています。

「髪を剃って出家の形をしたからといっても、欲望と貧りにみちているひとが、どうして道の人であろうか」 (法句經 264)

出家をすれば仏教の現実として、まず頭を剃ります。

お釈迦さまは、29 歳で妻も子も父も養母も捨てて城を抜けだしました。今の言葉でいえば蒸発です。

城を遠く離れ、乗っていた愛馬のカンカカと、従者のチャンカカを城に返して、自分は髪を剃って、着ていた王子の立派な衣装を会った人の粗末な着物と交換して、一介の貧しげな僧の姿になります。

悟りを聞くための厳しい修行に入るための決意をそこに見ることができます。

後の仏教者は、この時のお釈迦さまにならって、みな出家する時には髪を剃ってしまいます。剃髪 (ていはつ) といいます。

しかし、いくら盛大な出家式をあげ、剃髪し、衣を身にまともって、本当に心が道をもとめて、正しい修行をしなければ、真の出家者とは言えません。

世の中には、形だけ僧侶の姿をして、心は在家の人にも劣る破壊墮落 (はかいだらく) の僧が、いかに多いことでしょう。その見本は私だと反省しています。